

当事者の楽しい暮らしを共に支えて グレースケア研修レポート

グレースケアでは 毎月1回、全体研修を行っています。10月は利用者の青木敬也さん(27歳)からお話を伺いました。

青木さんは、徐々に全身の筋力が低下していく脊髄性筋萎縮症(SMA)で、動かせるのは指先や首など身体の一部です。進行に伴い普通学校に行けなくなったこと、ご家族と手作りで重ねてきた工夫、そして自身でヘルパーを育て念願の一人暮らしを始めたことなど話してくださいました。

重度訪問介護の講師として、介護のやりがいや難病当事者の生活を伝えており、お金を貯めてご両親に旅行券をプレゼントされたそう。「親への恩返し」という夢を実現しました。

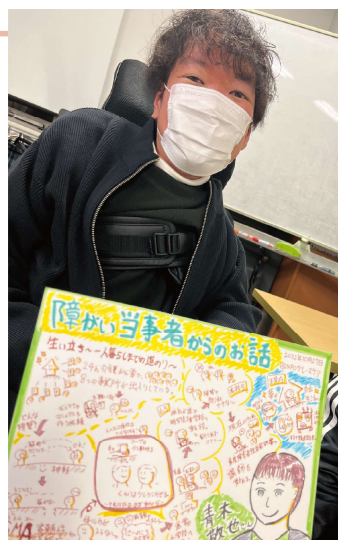
今後は、ほかの障がい者の相談に乗ったり、自立生活の後押しをしたいとのこと。想い描く夢を叶えるため積極的に行動する原動力を伺うと、「同世代と比べて何もできないことに落ち込んでいたとき、ある看護師さんから『あなたはあなたでいいんだよ』と言われて救われたこと」。そしていま、自立生活では健康ミキサー食を味わい、外に出かけて遊びを愉しんでいます。ヘルパーには「介助のうまさより人柄をみている、お互いに生きていて幸せな方がいいし、楽しんでくれる人歓迎!」とのこと。会場とオンラインを合わせて50名ほどが参加し、青木さんのファンがまた増えました。

担当ヘルパーより

青木さんのケアでは、いつも雑談を楽しんでいます。常に“ヘルパーに負担のない介助方法”を考えて、丁寧に手順を説明下さり、優しさや思いやりを感じます。いまヘルパー事業所や相談のお仕事を準備されており、今後ますますの活躍を心から応援しています!(中里)

青木さんは未経験の私に、介助のコツや声かけの仕方など基本から教えて下さいました。関係が深まるとともに、自立生活(一人暮らし)の希望を語られ、実現を手伝えることに誇らしさも覚えました。この先も充実した生活の一助になれるよう励んでいきます。(根崎)

～青木様、ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました～



青木敬也さん

3年ぶりの福祉バザー、大盛況!

11月20日、防災公園・元気創造プラザで福祉バザーが開かれ、多くの人で賑わいました。グレースケアも玉こんにゃくと焼きそば、でこちゃんの手芸で出店し、お昼には行列ができるなど大人気でした。

利用者さんと模擬店を回ってスタンプラリーを楽しんだスタッフは、この日の盛り上がりには驚き!コロナを経て3年ぶりに、まちなかの活動団体が勢ぞろいし、待ち望んでくださった地元の方とともに楽しむことができました。



介護保険の危機を食いとめよう!

～オンライン&院内集会を開催!

次回の介護保険改定に向けて、社会保障審議会では今年にかけて議論が行われています。

- ①要介護1・2を介護給付から外す
- ②自己負担を原則2割にする
- ③ケアプランを有料化
- ④施設の職員配置基準の見直し

など当初案に対して、有志が「史上最悪の介護保険改定を許さない!会」を作り、4回のオンライン集会和11月18日に院内集会を行いました。会場には議員やメディア各社も加わり、中継を合わせて400名程が参加、司会は上野千鶴子さんと柳本が務めました。

介護保険ウォッチャー服部万里子さんは自己負担の増と給付の抑制を重ねてきた制度の裏を明かし、共生型在宅老所の先駆者・惣万佳代子さんは「国には金がないのではなく、理念がない」と吠え、在宅医療の第一人者・佐々木淳さんは生活に不可欠な介護職の待遇が低すぎることに疑念を呈しました。ほか大熊ゆきさんや結城康博さんら教授から、ケア現場

の石井英寿さんらまで13名が次々と登場。会場からは大きな拍手が沸き起こりました。

グレースケアからは六車由実さん(『驚きの介護民俗学』著者)のメッセージを永井美紅が代読。藤原るか、根崎智央は寸劇でヘルパーの苦境をアピール。「何か作って」と頼む利用者に「すみません、調理は3分と国から決められていて…」とカップ麺を取り出し、厳しくなる制度の風刺で笑いを誘いました。最後は樋口恵子さん(高齢社会をよくする女性の会)が抗議声明を読みあげ、参加者は怒る猫のイラストを掲げて連帯の意思を表しました。

こういった取り組みが功を奏し、当初案はほとんど撤回される見込みです。連続集会では制度の複雑化と簡素化、介護と医療、在宅と施設など多様な切り口で介護制度の今にツッコんでいます。ぜひご覧いただき、一緒に今後の支え合いのあり方を考えましょう!

▶ youtube アーカイブはこちら ▶

